

政府行動計画・ガイドラインはなぜ紐解かれなかったのか？

旧・政府行動計画／ガイドライン

- さまざまな感染性、病原性の可能性を想定
- 数多の議論のもと、網羅的にやるべきこと、考えるべきことを記載した「メニュー表」

しかし、

- ほぼ「新型インフルエンザ」を想定した対策
- 過去事例の“過学習”

→早期に性質やリスクが見極められ、リスクが比較的早期に受容されることを前提

そもそも読んでいた
人が少ない

いざ開いてみても
読みにくい……

しかし、現れたのは
新型コロナウイルス！

感染性や感染様式、疾患
スペクトラム等について知見なし
→リスクの見極めに時間を要する

ワクチンも薬も無く、医療体制を
上回る感染爆発のリスク
→リスクを受容できない状況が継続

当初から想定が根本的に異なる状況

新・政府行動計画に望む8つの視点

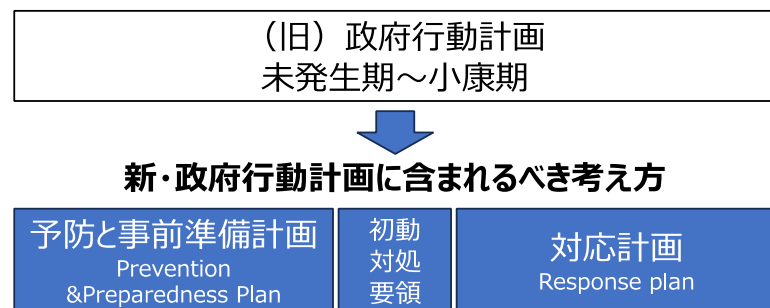
1. リスクランドスケープの精査

- 過去の事例の過学習(over fitting)に注意
- 病原体群に対する計画、病原体別の計画を

2. 平時も有事も読んでもらえる行動計画

- 備えていることを知らなければ備えていないと同じ

3. 予防・事前準備計画と対応計画で構成



4. 次のパンデミックであるべき姿を明確に

- 「あるべき姿 (ビジョン)」から逆算した事前準備計画を

5. 「情報提供と共有」から 「コミュニケーション計画」へ

- フェーズに応じたコミュニケーション計画を
- 感染対策は市民の協力が鍵
 - 平時の感染症予防活動に学ぶ

6. データ取得計画の策定

- より行動制限の少ない対策を行うために
- 病原体・疾病の性質、感染動態の解明
- 発生状況の把握とリスク評価
- 公衆衛生・社会対策の効果のモニタリングと評価
- 平時からのメカニズム構築が不可欠

7. 事前準備と初動対応の資金計画

- 中長期的な事前準備の強化
- 円滑な初動

8. 脆弱な人々を守る

- 最も影響を受ける人々を支える